

ぞうしがやフレーザーパーク通信 2021.11.28

- ◇日時：2021年11月28(日)午前10時30分～午後3時
- ◇天気：晴れ 強風
- ◇場所：豊島区立雑司が谷公園(芝生広場)
- ◇参加：150人程度
- ◇スタッフ：浜野、水越、佐分、清永、高野
- ◇お手伝い：河野君 豊昭学園高校ボランティア部1年、東京下町紙芝居 稲葉さん他 計3名
- ◇来訪者：ゆかりんく(公園内丘の上テラスで子ども向けイベント開催)
- ◇寄贈：布地(豊島区社会福祉協議会より)、板段ボール(井上より)

◇簡単報告：

- ◆今回は、強い突風のため、ダンボールは最低限しか出さなかった。段ボール滑り台も設置したが、風に煽られ危険なのですぐに外した。
- ◆100人を超える参加者で、段ボールを出さなかったこともあり、木工に人が集中してしまった。
- ◆道具を使わない遊びの仕掛けがもっとあればよかった。落ち葉プールを作ってもよかった。参加者を散らばらせる工夫が必要。
- ◆今回、竹を切りたい子が多く、普通の台だと固定できないので、丸太が2つ組み合わさった台の溝に挟んで固定して切った。細い角材も溝にはめて切ると低学年でも固定でき、材料を安定させて切ることができて良かった。
- ◆豊昭学園ボランティア部の河野君は、雑司が谷在住で南池袋小OB。高一ながらかなり落ち着いてしっかりした子で、ぜひ今後も続けて参加してほしい。スポーツが好きな子のようにだったので、体を動かす遊びを子どもたちとしてくれたらうれしい。
- ◆道具置き場は看板を立てたり、重箱に道具を並べたりして工夫したが、人に埋もれてしまい、状況はあまり改善しなかった。今回は道具は固めて置いたが、突風対策で、材料をシートの上にあちこち分散して置いたので、分かりにくかったかもしれない。人が多すぎたため、前半は糸掛け曼荼羅の道具は出さなかった。(糸掛の道具や材料も木工の材料になってしまうこと懸念。)
- ◆机がもっと欲しいという参加者の声が結構あった。
- ◆ダンボールカッターで木を切ろうとする人がやはり多く、歯がこぼれて、切れ味の悪い段ボールカッターが何本かある。針金をハサミで切る大人もいた。ノコギリは希望があった場合、スタッフ(もしくは保護者)立ち合いで使っているが、子供は木を切り終わると、ノコギリへの意識が薄れて、道具をボイしたり、刃の位置を考えずに動かす。切ってみたい、作ってみたい気持ちには寄り添いつつも、安全のためにも、道具の扱いにはルールがある事を理解してもらえるようにする工夫が必要。(道具を定位置に戻す 道具を正しく使う)ケガや事故防止のためにも、アイデアは自由でも、道具は大事に使うということはメッセージとして伝えたい。

◇その他：

- ◆道具と机については、次回、試しに、机を道具置き場にすることにした。(机は急には増やせない、工作は特に机がなくても出来る内容であることを考慮。また、道具を少し高いところに置いたら目立つのでは。)
- ◆ダンボールカッターでは、木は切れないことを掲示する。カッター本体にも、「木を切らないで」とテプラで書く。
- ◆木を切る道具(ノコギリ)が段ボールカッターとは別にあることをもっと分かりやすく示す。ノコギリを使う前に、注意点をしっかり説明する。
- ◆箱に入れるのではなく、板にかけて垂直に立てかけて置くと、分かりやすいかもしれない。会場の物理的な制約があるので、継続検討。

◇次回(12月26日)に向けて：

- ◆行事保険申し込み(12月分)、段ボール収集、道具・材料の置き方の検討